

1. コンテナ砂場プロジェクト(CSP)について

(1) 「コンテナ砂場プロジェクト (CSP)」とは

公益社団法人こども環境学会「東日本大震災復興支援活動*」の一環として、特に子どもの砂遊び環境の保障に特化した事業の推進を図るプロジェクト。

「コンテナ・砂場・プロジェクト」の頭文字を取り「CSP」と称する。

*こども環境学会「東日本大震災復興支援活動」

こども環境学会では、東日本大震災からの復興に際して、次代を担う子どもたちの視点でまちづくりを進める観点から、「東日本大震災にかかる行動計画」(2011.4)、「東日本大震災復興プラン国際提案競技『知恵と夢』の支援」(2011.9)、「子どもが元気に育つ復興まちづくりガイドライン」(2012.3)などを発表。2012年4月には、「復興再生：こどもの参画—こどもにやさしいまちづくり」をテーマに仙台で国際シンポジウムを含む全国大会を開催。 <http://www.children-env.org/> 参照

(2) 「コンテナ砂場」とは

大型海上コンテナを改装した比較的密閉度の高い砂場。原発事故による放射線の影響から、外遊びに不安をもつ地域の子どもたちに対して、外気との直接接触を最小限にしながら砂遊びができることを目指す。ただし、放射線を完全に遮断するものではなく、その設置に際しては現地の状況を十分考慮して行うことを前提とする。

(3) プロジェクトの目的

- ①原発事故の影響を受ける地域の子どもたちに対する砂遊びの機会保障。
- ②コンテナ砂場の提案及び提供援助。
- ③コンテナ砂場設置後の砂遊び環境研究(砂遊びの様子、保育・子育ての変化、放射線の影響等)。
- ④遊び環境保障を柱とする被災地支援の継続的社会連携システムの構築。

(4) プロジェクト立ち上げの背景

東日本大震災に伴う原発事故以降、子どもたちの運動量減少やストレス増加が指摘された。そのような中、福島学院大学附属幼稚園が室内砂場を設置したところ、子どもたちの笑顔が戻り、保育者も砂遊びの有効性を再確認したという(毎日新聞 2011.5.31)。その後、福島県内ではさらに数園が室内砂場をつくり活用している。

一方、室内砂場の設置には、場所や十分な砂の量の確保、水の使用、清掃等の課題もあり、現場の保育者には大きな負担が伴う。また、放射線量がそれほど高くない地域では、室内砂場の設置ま

で必要はないものの、できるだけ直接外気に触れないような砂場環境を求める声も大きかった。

このような状況に対して、コンテナ砂場は一定の解決を図ることができるものと考え。ただし、コンテナ砂場はあくまで非常時における一時避難的なものであり、同プロジェクトは戸外環境の復活を願い、より多くの人々に福島を思いながら協働することの重要性を訴えるものである。

(5) CSP メンバー

代表：河原啓二（姫路市医監兼生活審議監、こども環境研究会関西代表、こども環境学会理事）、
推進マネージャー：笠間浩幸（同志社女子大学）

CSP メンバー：井上 寿（環境デザイン研究所）、梶木典子（神戸女子大学）、菊池信太郎（郡山市震災後子どもの心のケアプロジェクト代表・小児科医）、汐見稔幸（白梅学園大学）、清水将之（関西国際大学大学院）、高木真人（京都工芸繊維大学）、中山 豊（こども環境学会事務局）、増子恵美子（福島学院大学）、吉田太郎（立教女学院小学校）

(6) プロジェクト基金の立ち上げ

本プロジェクトの推進に向け、こども環境学会内に「CSP 基金」を立ち上げ、広く協賛を募った。

2. 第1号コンテナ砂場の設置について

(1) 第1号コンテナ砂場の設置推進経過

- ①第1号コンテナ砂場の設置計画は、株式会社ユニケイ社が福島学院大学附属幼稚園に、砂場を作る「40'型」冷蔵用中古コンテナ（ISO規格品）を無償提供して下さるという厚意が端緒となった。
- ②同附属幼稚園は、園児及び福島子どもたちに対する砂遊びと、今後の砂遊び環境づくりの基礎研究のために、ユニケイ社の寄付申請を受け、中古コンテナの改装にかかる費用を支出した。
- ③こども環境学会の一研究組織である「こども環境研究会関西」は、長年にわたる地域でのサンドアート事業の経験から砂場環境の重要性を踏まえ、学会理事会でCSP及びそのための基金設立を提案し承認を得た。学会は基金への協賛金を、コンテナ砂場設置にかかる業務の一部に充てた。
- ④第1号コンテナ砂場の設置推進にあたり、公益社団法人こども環境学会、福島学院大学附属幼稚園、株式会社ユニケイは「コンテナ砂場設置にかかわる協定書」を締結し、三者協働で進めた。

(2) 第1号コンテナ砂場の概要

- ◎仕様：「40'型」冷蔵用コンテナ（長さ12.2m、幅2.4m、高さ2.6m）、左右両面壁に窓2つを設置。
- ◎内装：内部には約18.5㎡の砂場を設け、オーストラリア産のホワイトサンド（白砂）を敷き詰める（この白砂の使用は、砂の色、感触の良さとともに、外部からの砂が持ち込まれたときの判別が容易なことと、子どもたちもそのことを意識できるようにするため）。
最奥部に道具棚を設置。壁面は杉板材を用い、エアコンと省エネ蛍光灯（E.COOL）を設置
- ◎外装：左側壁面は同志社女子大学の学生亀山 愛さん、右側壁面は京都市内で喫茶店経営兼アートギャラリー経営のキュサク石井さやかさんによるデザイン。コンテナ扉には、プロジェクトに協賛いただいた企業等名を明記。
- ◎設計：木津田秀雄一級建築士（胡桃-KURUMI-設計、伊丹市）
- ◎外装イメージ図（実際とは若干違ってきます）



コンテナ左側壁面



コンテナ右側側面

(3) コンテナ砂場の設置及び砂の搬入

◎コンテナ砂場の設置：7月26日（木）

◎設置場所：福島学院大学附属幼稚園駐車場（〒960-0116 福島市宮代乳児池1-1）

◎砂の搬入：7月30日（月）

(4) 設置記念オープニング・セレモニー

◎7月31日（火）午前10時より、同附属幼稚園にて開催予定

3. CSP 推進に関する関連事項

(1) 本プロジェクトへの協賛企業・団体等

◎株式会社ユニケイ

◎株式会社ヨークベニマル

◎臨床育児・保育研究会

◎ハリオグラス株式会社

◎株式会社ボーネルンド

◎東京エー・アイ・シー株式会社

◎プレイフル・サンドアート in 須磨 2012 参加者、ほか個人有志

(2) プロジェクト基金への協賛依頼

本プロジェクトでは引き続き、基金への賛同を募ります。

◎振込先：みずほ銀行 自由が丘支店 普通預金 2575793 公益社団法人こども環境学会 CSP

(3) 問い合わせ

◎プロジェクト推進全般に関して

笠間浩幸（CSP 推進マネージャー）：同志社女子大学 教授

電話：0774-65-8543、Fax：0774-65-8546、メール：hkasama@dw.doshisha.ac.jp

住所：610-0395 京田辺市興戸 現代社会学部現代こども学科

◎こども環境学会「東日本大震災復興支援活動」に関して

中山 豊：公益社団法人こども環境学会事務局専務理事

電話：03-6441-0564、Fax：03-6441-0563 住所：106-0041 東京都港区麻布台 3-2-12

◎第1号コンテナ砂場設置幼稚園

増子恵美子 附属幼稚園担当理事

電話：024-553-3221 Fax：024-553-3222 住所：〒960-0181 福島市宮代乳児池 1-1 以上